

## 6 ヘキ地医療

全ての県民が質の高い医療を安心して受けられる体制を確立するためには、医療資源の少ないへき地の医療を確保することが重要です。

このため、へき地公立病院等への自治医科大学卒業医師の派遣や、巡回診療等による診療の確保、へき地医療拠点病院等による診療支援や在宅医療機能の充実などにより、へき地医療の確保・充実に努めます。

### 【現状と課題】

(へき地市町村)

- この計画にいう「へき地市町村」とは、本県の山間部が多いという地理的条件等から、医療に恵まれない地域であり、過疎地域自立促進特別措置法、山村振興法及び離島振興法の指定地域(一部が指定されている場合も含む)のいずれかに該当する市町村で、県内19の市町村が該当します。

へき地市町村の人口構造をみると、いずれの市町村も65歳以上人口の占める割合が県平均より高くなっています。

- へき地市町村内には、医療機関のない地域で、当該地区の中心的な場所を起点として、おおむね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地区であって、かつ容易に医療機関を利用することができない「無医地区」が6市町村14地区、同様に歯科医療機関のない「無歯科医地区」が8市町村17地区あります。

(表) へき地市町村の状況

へき地 市町村	条件不利地域指定状況			無医 地区	無歯科 医地区	人口 (人)	65歳以上人口	
	過疎	山村	離島				実数	率
都 城 市	△	△				166,424	47,141	28.4
延 岡 市	△	△	島野浦島	3	4	126,983	38,371	30.3
日 南 市	○	△	大島	1	1	54,841	18,654	34
小 林 市	△	△				46,880	15,321	32.8
日 向 市	△	△				61,879	17,368	28.2
串 間 市	○	△	築島	1	1	19,232	7,268	37.9
西 都 市		△			1	30,990	10,185	32.9
えびの市	○					20,094	7,553	37.7
高 原 町	○					9,443	3,415	36.2
綾 町		○				7,316	2,346	32
西米良村	○	○				1,183	495	41.8
木 城 町	○	○			1	5,170	1,700	32.9
都 農 町	○					10,447	3,542	33.9
諸 塚 村	○	○		3	3	1,791	730	40.8
椎 葉 村	○	○		5	5	2,864	1,170	40.9
美 郷 町	○	○				5,721	2,649	46.3
高千穂町	○	△				12,857	4,876	37.9
日之影町	○	○		1	1	4,071	1,716	42.2
五ヶ瀬町	○	○				4,042	1,479	36.6
19市町村	17	16	3	14	17	572,134	185,979	32.5
県 計						1,114,775	317,416	28.5

(注) ・無医地区、無歯科地区は、2014年度厚生労働省調査  
 ・人口は、「宮崎県の推計人口(2014年10月1日現在)」(宮崎県統計調査課)  
 ・表内の「○」は全部指定地域、「△」は一部指定地域

(へき地公立病院等)

○ へき地市町村における過疎地域等においては、民間による医療提供が困難な状況にあることから、主に自治体が設置するへき地公立病院等やへき地出張診療所等により医療が提供されています。

へき地公立病院の中には、椎葉村国民健康保険病院など、道路事情や高齢者の移動手段が限られることなどにより、一定の地域で第一義的に急性期から回復期、生活期までの患者を受け入れる体制が必要な病院もあります。

なお、「へき地診療所」とは、狭義では無医地区及び無医地区に準じる地区において市町村が整備した診療所をいいますが、これに準じて設置の必要性について県が厚生労働省と協議し適当と認めた地区に設置されているものも「へき地診療所」としています。

(表) へき地公立病院等の状況

市町村名	病院・診療所名	病床数	診療科目	医師数 (人)	
病 院	高千穂町	高千穂町国保病院	120	内、小、外、整、皮、循、眼、耳鼻、リハ	11 (自大3)
	日之影町	日之影町国保病院	50	内、外、リハ	3
	五ヶ瀬町	五ヶ瀬町国保病院	54	内、外、整、放、リハ、消	2
	串間市	串間市民病院	120	内、外、整、泌尿、皮、放、リハ、産婦、耳鼻、麻	10
	日南市	日南市立中部病院	88	内、外、消、整、眼、耳鼻、リハ、放	7
	えびの市	えびの市立病院	50	内、外、整、放、リハ	4
	高原町	国保高原病院	56	内、外、リハ	4
	都農町	都農町国保病院	65	内、消、外、整、放、リハ、アレ、眼	4
	日向市	日向市立東郷病院	30	内、小、外、整、リハ	2
	椎葉村	椎葉村国保病院	30	内、外、整	3 (自大2)
	美郷町	美郷町国保西郷病院	29	内、整、放、リハ	4 (自大2)
合 計	11施設			54	
診 療 所	延岡市	延岡市立島浦診療所	0	内、消、小、外	1
		北方医院(※)	0	内、消、外、小	1
		北浦診療所(※)	0	内、呼、外、小	1
	高千穂町	田原診療所(※)	0	内、小	1
	串間市	串間市市木診療所	0	内	1
	小林市	小林市立須木診療所	0	内、外、小	1
	西都市	東米良診療所	19	内、外	1
	西米良村	国保西米良診療所	19	内、外、整、小、リハ	2 (自大1)
	美郷町	美郷町国保南郷診療所	19	内、外、整、小、リハ	2 (自大1)
		美郷町立北郷診療所	3	内	1
	諸塚村	国保諸塚診療所	19	内、外、小	3 (自大1)
合 計	11施設			15	
病院・診療所計				69 (自大10)	

(注) ・へき地出張診療所は除く。

- ・(※)は民営の診療所。その他は公的診療所(医療法第31条に規定する公的医療機関で、都道府県、市町村その他厚生労働大臣の定める者(地方公共団体の組合・国保団体連合会・日赤・済生会等)の開設する診療所)。
- ・内…内科、小…小児科、外…外科、整…整形外科、皮…皮膚科、放…放射線科、リハ…リハビリテーション科、泌尿…泌尿器科、循…循環器科、消…消化器科、呼…呼吸器科、産婦…産婦人科、耳鼻…耳鼻咽喉科、眼…眼科、麻…麻酔科、アレ…アレルギー科

(へき地診療の支援)

- 市町村が設置する診療所のうち、医師の常駐が得られないへき地出張診療所は、7市町13施設あり、このうち、6市町10施設の地元の開業医等が行う出張診療に対して県が支援を行っています。
- 無医地区や無歯科医地区、その他医療に恵まれない地域の医療を確保するため、へき地公立病院等や民間診療所、県歯科医師会による巡回診療が行われていますが、道路事情の改善や人口減少等により、受診者数は概ね減少傾向にあります。  
また、無医地区等では、少ない医師でより効果的に医療を提供するため、市町村による最寄りの公立病院等までの巡回バスや乗合タクシー等の運行などの取組が行われています。
- 日南市や西米良村では、情報通信技術を活用した遠隔診療の実証実験等が行われており、今後、通常の診療を補完するものとしてへき地医療の確保に資するかどうかを検証する必要があります。
- 無医地区を多く抱える日向入郷医療圏に、椎葉村国民健康保険病院と美郷町国民健康保険西郷病院の2つのへき地医療拠点病院を指定し、代診医の派遣や巡回診療等を行っています。

(医師の状況)

- へき地市町村では、人口千人当たりの医師数が県平均を全ての市町村で下回っており、医師の絶対数そのものが不足している状況です。  
また、1km<sup>2</sup>当たりの医師数を見ても、都城市だけが県平均を上回っているのみであり、特に山間地の多い地域では、一人の医師で広範囲の地域住民の医療を支えざるを得ない状況となっています。
- へき地公立病院等においては、安定的な医師確保が極めて重要であるため、それぞれ宮崎大学、熊本大学及び鹿児島大学からの医師派遣を受けているほか、県から自治医科大学卒業医師を計画的に派遣するとともに、県と市町村が共同で設立した「医師確保対策推進協議会」での取組み等を行っています。全体では常時10名を超える医師が不足している状況にあり、引き続きへき地に勤務する医師の確保を図る必要があります。

(表) 医師の状況

へき地 市町村	面積 (km <sup>2</sup> )	人口 (人)	医師数 (人)	人口千人当たり 医師数	1 km <sup>2</sup> 当たり 医師数
都 城市	653.31	166,424	342	2.05	0.52
延 岡 市	868.09	126,983	233	1.83	0.27
日 南 市	536.12	54,841	123	2.24	0.23
小 林 市	563.09	46,880	91	1.94	0.16
日 向 市	336.29	61,879	108	1.75	0.32
串 間 市	294.98	19,232	35	1.82	0.12
西 都 市	438.56	30,990	53	1.71	0.12
えびの市	283	20,094	37	1.84	0.13
高 原 町	85.38	9,443	8	0.85	0.09
綾 町	95.21	7,316	6	0.82	0.06
西米良村	271.56	1,183	2	1.69	0.01
木 城 町	146.02	5,170	1	0.19	0.01
都 農 町	102.33	10,447	9	0.86	0.09
諸 塚 村	187.59	1,791	3	1.68	0.02
椎 葉 村	537.35	2,864	3	1.05	0.01
美 郷 町	448.72	5,721	7	1.22	0.02
高千穂町	237.32	12,857	21	1.63	0.09
日之影町	277.68	4,071	3	0.74	0.01
五ヶ瀬町	171.77	4,042	2	0.49	0.01
19	6,534.37	592,228	1,087	1.84	0.17
県 計	7,736.08	1,114,775	2,730	2.45	0.35

(注) ・人口は、「宮崎県の推計人口(2014年10月1日現在)」(宮崎県統計調査課)  
・医師数は、「医師・歯科医師・薬剤師調査(2014年12月現在)」

- 2012年4月に宮崎大学医学部附属病院を基地病院として、ドクターヘリが導入され、救急医療だけでなく、へき地医療の確保にも大きく貢献しています。
- へき地医療を確保するため、これらのへき地診療支援の充実を図るとともに、ドクターヘリや防災救急ヘリ「あおぞら」、ドクターカー等の活用による救急・へき地医療体制の強化を進める必要があります。

#### (行政機関等の支援)

- 公立・公的医療機関を有する自治体と県で「医師確保対策推進協議会」を設置し、県の無料職業紹介事業を通じて、求人している支援医療機関に対して医師をあっせんしています。
- 医師修学資金を医学生に貸与し、へき地の公的医療機関での勤務を条件に返還免除とすることで、へき地で勤務する医師を確保しており、今後、へき地医療の担い

手として期待されています。

- 宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座と連携し、へき地で需要の高い総合診療医など、地域医療を担う医師を育成しています。

## 【施策の方向】

(へき地診療)

- へき地医療の最大の課題は医師不足であることから、引き続き自治医科大学卒業医師を計画的に派遣するとともに、地域医療支援機構や医師確保対策推進協議会での取組み等により、へき地に勤務する医師の確保を図ります。
- 宮崎大学医学部や自治医科大学との連携・協力により「宮崎大学医学部オープンキャンパス」や「自治医科大学説明会」を開催し、県内の高校生に対して地域医療の意義や魅力について紹介することにより、宮崎大学医学部や自治医科大学への進学、県内への定着や地域医療への貢献について意識づけを図ります。
- また、へき地公立病院等による往診等が困難な地域については、引き続き近隣病院や開業医等の協力を得ながら、出張診療や巡回診療等を実施するほか、高齢者等の移送サービスの導入などにより効果的な医療提供体制について関係市町村と連携を図ります。

(へき地診療の支援)

- へき地における医療を効率的・効果的に提供するためには、医療人材の充実を図るとともに、へき地公立病院等の機能の充実や相互連携が求められます。  
このため、へき地医療拠点病院である椎葉村国民健康保険病院及び美郷町国民健康保険西郷病院により、無医地区等への巡回診療や代診医派遣等を月1回以上あるいは年12回以上実施し、へき地においても一定程度の質の高い医療が提供できる体制の支援を行います。
- その他のへき地公立病院等においても市町村と連携しながら医師の安定的な確保を図り、在宅医療機能やへき地出張診療所等への医師派遣機能の充実を目指します。
- へき地医療で認定された社会医療法人において、広域的なへき地医療支援事業を企画・調整する機関であるへき地医療支援機構の指導・調整に基づき、へき地診療所等への代診医等の派遣を行います。  
なお、新たにへき地医療による社会医療法人の認定を受けようとする医療法人は、あらかじめへき地医療支援機構による認定要件の調整・確認を受けた上で認定手続きを行うものとします。
- へき地公立病院等の一層の機能の充実を図るため、引き続き施設整備や設備整備に対する支援を行います。
- ドクターヘリや防災救急ヘリの有効活用や、消防機関等関係機関との連携を強化することにより、へき地の救急医療体制の充実を図ります。
- ICTを用いた遠隔診療支援などの活用により、へき地における良質な医療の提供を行うとともに、医師の教育環境の改善を図ります。

(行政機関等の支援)

- へき地公立病院等で医学生が地域医療の現場を体験する「医学生地域医療ガイドンス」や、若い医師・医学生等に対し地域医療の文化を伝道する目的で2011年度に美郷町が開講した「みさと地域医療塾」(塾舎：今世六感塾(いまよろっかんじゅく))などを実施することにより、へき地医療に対する興味・理解を深める契機とし、将来へき地医療に携わることを希望する医師の養成・確保を図ります。
- 医師確保対策推進協議会や県の無料職業紹介、医師修学資金貸与者のへき地等への円滑な配置調整等の取組みによる医師の地域偏在の解消や、自治医科大学卒業医師を含む医師のキャリア形成支援によるへき地等への定着促進を図るとともに、宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座と連携しながら、へき地で特に強く求められている幅広い診療能力を有する総合診療医の育成を目指します。
- 宮崎大学医学部と地域医療支援機構、県病院局が連携し、県立日南病院内に設置された「宮崎大学医学部附属病院地域総合医育成サテライトセンター」では、地域の医療機関、特にへき地医療機関に勤務する医師を育成し、安定的に確保することを目指します。
- 県立病院の地域医療科の強化を図ることにより、へき地医療を支援する機能の充実を目指します。
- 将来的なへき地医療やへき地医療機関のあり方について議論するために、県及び市町村、へき地に勤務する医師など関係機関による協議を行います。

**【数値目標】**

項 目	現状 (2017年度)	目標値 (2023年度)
へき地における常勤医師数	69人	75人

# 宮崎県におけるへき地の医療体制

2017年12月

